

つながり ささえあう 地域の力

～地域共生社会の実現に向けた事例集～

福岡市社会福祉協議会では、地域共生社会の実現を目指して
さまざまな地域福祉活動を支援しています。

〈お問合せ先〉 **社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 地域福祉課**

〒810-0062 福岡市中央区荒戸3-3-39 福岡市市民福祉プラザ内
TEL 092-791-6339 FAX 092-713-0778
<http://www.fukuoka-shakyo.or.jp/>

- 東区社協事務所 〒812-0053 福岡市東区箱崎2-54-27 東保健所1階
TEL 092-643-8922 FAX 092-643-8923
- 博多区社協事務所 〒812-8514 福岡市博多区博多駅前2-19-24 博多区保健福祉センター3階
TEL 092-436-3651 FAX 092-436-3652
- 中央区社協事務所 〒810-8622 福岡市中央区大名2-5-31 中央区役所1階
TEL 092-737-6280 FAX 092-737-6285
- 南区社協事務所 〒815-8501 福岡市南区塩原3-25-1 南区役所別館1階
TEL 092-554-1039 FAX 092-557-4068
- 城南区社協事務所 〒814-0103 福岡市城南区鳥飼5-2-25 城南保健所1階
TEL 092-832-6427 FAX 092-832-6428
- 早良区社協事務所 〒814-0006 福岡市早良区百道1-1-1 UMIBE B.L.D.1階
TEL 092-832-7383 FAX 092-832-7382
- 西区社協事務所 〒819-0005 福岡市西区内浜1-7-1 北山興産ビル1階
TEL 092-895-3110 FAX 092-895-3109

令和3年3月発行 この事例集は、福岡市「地域共生社会の実現に向けた地域力強化事業」の委託により制作しています。



表紙の絵は、高齢者、障がい者、子ども、外国人など、誰もが互いにつながり、ささえあいによって
地域で安心して暮らせる“共生社会”の姿をイメージしたエイブルアートです(作:濱田皓子)。

Contents 目次

- さわら南よかここネット …………… P3-6
早良区南部(早良区)
【高齢者】【障がい者】見守り・居場所・生活支援
- ほほえみカフェ …………… P7-9
弥永校区(南区)
【高齢者】見守り・居場所
- ふら〜っとカフェ壱岐南 …………… P10-12
壱岐南校区(西区)
【高齢者】見守り・居場所・生活支援
- しろうおカフェおれんじ …………… P13
多々良校区(東区)
【高齢者】見守り・居場所
- サロンなごみ・よりあいの森 …………… P14
田島校区(城南区)
【高齢者】【障がい者】見守り・居場所
- 社会貢献型空家バンク事業 …………… P15-16
空家を地域の「宝」にする仕組み
- ふれあいネットワーク …………… P17-19
草ヶ江校区(中央区)
【高齢者】見守り
- 三苦営繕おたすけ隊 …………… P20
三苦校区(東区)
【高齢者】見守り・生活支援
- シルバー 110番 …………… P21
高取校区(早良区)
【高齢者】見守り
- 地域福祉ネットワークチーム鶴田 …………… P22
鶴田校区(南区)
【高齢者】見守り
- 消防分団と民生委員による合同訪問 …………… P23
周船寺校区(西区)
【高齢者】見守り
- ガス会社・大学・地域の産学官連携 …………… P24
田隈校区(早良区)
【高齢者】見守り
- いまどこシステム …………… P25
板付北校区(博多区)
【高齢者】見守り
- 県営高須磨団地 外国人入居者支援 …………… P26
東箱崎校区(東区)
【外国人】見守り・生活支援
- わが街コンシェルジュ …………… P27-28
美和台校区(東区)
【高齢者】生活支援
- ひとりじゃないよ …………… P29
若久校区(南区)
【子ども】【障がい者】居場所
- 花畑福祉作業所連絡会(通称:はなされん)… P30
花畑校区(南区)
【障がい者】居場所・生活支援
- かしいはま子どもの家 ぽてとはうす … P31-32
香椎浜校区(東区)
【子ども】見守り・居場所
- つくって食べよう土曜屋! …………… P33-34
野芥校区(早良区)
【子ども】居場所
- NPO法人山王学舎 放課後の自学の習慣化活動… P35
那珂校区(博多区)
【子ども】見守り・居場所
- わくわく楽習室・わくわく文庫 …………… P36
長尾校区(城南区)
【子ども】居場所
- ささえあいの地域をめざして …………… P37-38

※本誌に掲載している人口・世帯数・高齢化率は令和2年9月末現在のものです。
※誌面の連携している人々は順不同です。

はじめに

昨今、少子高齢化や社会構造の変化に伴い、家族のあり方や働き方、暮らし方が大きく変化しています。

2025年には団塊の世代が75歳以上となり、2040年頃には多くの都市で高齢者数がピークを迎えます。福祉を取り巻く環境はよりいっそう厳しさを増しており、それに伴って、社会的な孤立などを背景に、複雑な課題を抱えた人も増えています。

福岡市では、地域の多様な立場の人たちとともに、行政や社会福祉協議会、さまざまな相談支援機関等が一体となって、高齢になっても、誰もが自分らしく、住み慣れた地域で生活できる「地域包括ケア」の取り組みを進めています。

この地域包括ケアの理念は、高齢化に伴い増加する認知症の方のケアや病気を抱えた人の在宅医療といった支援だけではなく、障がいのある方の社会参加、子どもの貧困の解消など、幅広い分野の課題解決にも通じるものです。さまざまな課題を抱えた方が社会的に孤立することなく、住み慣れた地域でその人らしく生活し続けることができる「地域共生社会」の実現が、これからの地域福祉のテーマとなっています。

このような「地域共生社会」につながる取り組みは、福岡市の各地で、さまざまな思いの中で、既実践されています。地域福祉を支える校区社協の関係者をはじめ、自治協議会や自治会・町内会、民生委員・児童委員、介護施設や事業所の職員など、いろいろな立場の人々がお互いを知り、認め合いながら、居場所を通じて交流したり、企業や専門職とネットワークを形成したりと、つながりを広げています。連携の仕方はさまざまで、活動内容も高齢者の見守りだったり、子どもの居場所だったり、地域の特性を生かし、創意工夫を凝らしています。地域での生活に密着した、多様で柔軟な「ささえあい」が支援に広がりを生み、厚みを増しているといえます。

今回、これらの「ささえあい」を、連携や協働、支援の仕方、仕組みづくりをちりばめた「事例集」としてまとめました。ここでは、単体による支援から大きなネットワークによる支援まで幅広く紹介しています。さまざまな分野の支援の広がりを伝えるため、「高齢者」や「子ども」、「見守り」や「居場所」といった分類を入れていますが、地域では、実際にはこれらが自然に絡み合っており取り組まれています。ある場面では、支援を受ける人が支援をする人となり、支援に「気づき」を与えてくれます。「お互いさま」の心が「ささえあい」のチカラになっているのです。

いきいきと、すてきで、ゆたかな実践を交流できる事例集として受けとめていただき、ここで紹介した各地域の知恵や実践から課題、手法が共有され、「地域共生社会」の実現に向けて、皆さんの地域にあうカタチで広がっていくことを願っています。

72事業所のネットワークと地域・関係機関が1チームに



早良区

さわら南よかここネット

地域の概要

「さわら南よかここネット」は、地下鉄野芥駅に近い野芥、四箇田団地を有する四箇田、背振山系・油山山系の麓に広がる入部、早良、内野、脇山、曲淵の7校区にわたる広域事業所ネットワークです。

●人口・世帯数・高齢化率

	人口	世帯数	高齢化率(%)
野 芥	12,023	5,591	29.9
四箇田	7,252	3,437	31.9
入 部	7,812	3,444	32.6
早 良	3,674	1,631	36.6
内 野	6,223	2,871	34.0
脇 山	2,228	994	39.7
曲 淵	124	67	56.5

連携している人々

- 各校区社会福祉協議会
- 各校区自治協議会
- 民生委員・児童委員
- 各校区公民館
ほか

お問合せ

早良区社協事務所
TEL 092-832-7383



活動のきっかけと内容

早良区南部は福岡市の中でも高齢化率の高い地域で、1つの事業所・法人で高齢者を支援するのは難しくなっていました。熱心な事業所と豊富な地域資源が1つのチームとして機能すれば、介護が必要になっても認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるのではないかと。そんな思いから圏域の事業所がいきいきセンターや区社協と手を結んで「さわら南よかここネット」を作り、高齢者支援を行っています。当初、介護事業所の連携から始まり、その後、障がい事業所や医療機関が仲間に入って現在約30法人・72事業所のつながりになっています。

会則はなく、活動できるメンバーが「地域のお困りごとのお手伝いをする」という気持ちで買い物支援や移動支援、地域カフェやサロンでの出前講座、声かけ訓練、避難訓練を行っています。



わきやま主基カフェ(脇山)

活動の工夫

区社協は地域支援、いきいきセンターは個別支援、事業所は実働部隊という役割・領域を大切に、尊重しています。地域からの相談に対して「断らない」がモットー。2カ月に1回の案内人会議と定例会で情報を共有してアイデアを出し合い、「まずはやってみる」と行動に移しています。事業所やメンバーを知ってもらうため、地域住民による施設見学会も実施しています。



認知症サポーター養成講座(曲淵)

今後の展望

認知症サポーター養成講座やカフェでは専門職が健康体操や口腔ケアなどを教え、実践できると地域住民に評判。事業所が互いを紹介しあい、高齢者や家族の希望に沿うデイサービスの活用等にもつながっています。地域に溶け込んで人々の声に耳を傾け、目立たなくても必要不可欠な存在になりたいと考えています。

買い物支援・送迎

ふれあいバスよかとこ号(早良校区)

校区のボランティアとの共同事業。毎週木曜、送迎車・運転手を提供して買い物支援を行う。

公民館への送迎(脇山校区)

「免許返納した」「バスの便がない」という理由で公民館活動に参加できない方を送迎している。

重留3丁目買い物支援バス(入部校区)

坂道が多い町内で月に1回、送迎バス・運転手を提供して買い物支援を行う。

部 会

通所部会合同レクリエーション

1年に2回、通所施設が合同で風船バレー大会、文化祭を実施。

求 人

よかとこワーク

早寿園の掲示板に「求人情報」を掲示。事業所の人手不足解消、労働環境改善、地域人材の活用を担う。

講座・訓練

声かけ訓練(入部校区)

地域住民が認知症の方を発見して事業所へ保護を依頼した事例があり、成果を実感している。

認知症サポーター養成講座

認知症になっても安心して暮らせる地域を目指して実施している。

健康について

健康づくり自主グループわかば(内野校区)

月2回、内野公民館で開催されている。よかとこ事業所による健康体操、脳トレを実施。毎月第2木曜に参加。

さわら南よかここネット 活動内容

その他

入部校区福祉フェスタ、福祉体験学習、地域交流、夏祭り、入部校区バザーなど

カフェ・サロン

すみれサロン(入部校区) 楠カフェ(入部校区)

わきやま主基カフェ(脇山校区) カフェしかた(四箇田校区)

ロビー喫茶(早良校区) サロンド内野(内野校区)

介護相談、血圧測定、体操、脳トレ、講話などを行っている。また、自転車屋の少ない地域なので、自転車の修理が得意なメンバーによる自転車の無料点検「自転車のお医者さん」を定期的に行っている。



声かけ訓練(入部)



すみれサロン(入部)



買い物支援(早良)



カフェしかた(四箇田)



サロンド内野(内野)

つながる
仕組み

●早良区南部(7校区)にある介護・医療・障がい福祉サービス事業所、早良区社協事務所、いきいきセンター(地域包括支援センター)で構成。

ONE TEAM

校区社会福祉協議会 自治協議会
民生委員・児童委員 公民館ほか

地域

四箇田・入部・早良・内野・
脇山・曲淵・野芥校区

Point!

72事業所が
参加

介護・医療・障がい
福祉サービス事業所

さわら南

よかここネット

早良第6・7
いきいきセンター

早良区社協事務所
(CSW)

活動

- 事業所連携
- 家族支援
- 認知症の方への対応方法の普及啓発

会議

- 定例会(偶数月)
- 案内人会議(奇数月・定例会の反省、連絡事項等を共有)

関係者の声

専門職の視点がありたく
頼りにしています

さわら南よかここネットの皆さんは普段から地域の人々に関わりを持ち、よもやま話の中から課題を見つけ、プロの視点からアドバイスしてくれたり、カフェの送迎や災害時の避難介助を買って出てくれたりして助かっています。今後も、高齢者地域支援会議などに参加して町内の悩みを聞き、解決策の相談に乗ってみたいです。若い方々との交流によって会議は活発化し、地域も活性化するでしょう。皆さんの知恵とアイデアに期待しています。



脇山公民館 館長
おおつる しんご
大鶴 進吾さん

活動の歴史

平成24年

- 事業所マップを作り、民生委員へ配布
- 事業所へよかここネットへの参加依頼

平成25年

- 認知症サポーター養成講座を行う

平成26年

- 地域からカフェの参加依頼が増える

平成27年

- 入部校区で声かけ訓練が始まる
- 他地域で講演依頼が増える
- 障がい事業所へネットワークが広がる

平成28年

- 民生委員向け施設見学会の実施
- RUN伴(認知症の人や支援者らのリレー)に初参加

平成29年

- 早良校区で買い物支援が始まる
- 相談シート作成

平成30年

- 入部校区避難訓練実施
- よかここワーク開始

令和元年

- サロン、講演依頼が増える
- 入部校区の買い物支援を葬儀会社から引き継ぐ
- 定例会で地域懇談会を実施

令和2年

- あんしんシート作成
- 事業所版声かけ訓練の実施

事業所連携の意義を 代表に聞く

さわら南よかここネット

はやし りゅういち
代表 林 隆一さん(恵風苑ケアプランサービス)



■高齢化率上昇に伴い、連携を図る

高齢化が進むにつれて1つの介護・福祉事業所の限られた人員と設備で高齢者を支援していく難しさを感じており、一方でこの地域には熱意のある事業所が多いとも感じていました。これらの事業所と区社協などがワンチームになって高齢者を支援していけたらいいなという思いから、ネットワークを作りました。当初、約20の介護事業所が手を結び、地域の認知症サポーター養成講座やカフェに参加。参加する事業所も徐々に増え、今では約30団体72事業所のネットワークになっています。

■スタッフが持ち味を発揮して輝く

地域の方々と顔見知りになると地域からさまざまな相談が寄せられ、それに呼応して活動の幅が広がっていきました。地域からの相談は、案内人会議や定例会で共有して解決に向けたアイデアを出し合い、対応できる人たちが「それは僕がしよう」「それは私が」と名乗り出て行動に移しています。また、地域の高齢者のバスハイクとして実施されていた施設見学は、私たちのいずれかの施設が受け入れています。受け入れる施設は普段通りのデイサービスを行い、入所者と同じレクリエーションと昼食を提供しています。事業所のスタッフは誇りを持って楽しく働き、事業所はそれぞれに強みを持っていましたが、それを披露する場があまりありませんでした。今、スタッフは定例会やカフェで持ち味を発揮し、事業所は施設見学などで地域の方々に魅力を伝えています。それぞれが輝きを増し、地域の方々には事業所を利用していただけるようになって嬉しく思っています。

事業所が互いの特徴を知ったことで、本人の望むサービスを選択しやすくなりました。例えば、運動より創作が多い事業所に運動を好む高齢者が行ってもストレスを感じるでしょうから、運動を好む人には運動できる施設を紹介します。その方の個性や特性に合った施設を、施設同士で紹介しあえる間柄になったこともまた嬉しいことです。

■地域を尊重し一緒に頑張っていきたい

「どうしたら連携がうまくいくか」「ネットワークを作って何をやったらいいか」とよく質問されますが、私たちは規約や書類を作ってキチッとやっているわけでもなく、地域にあったやり方でいいと思います。会議や活動に参加できなかったとしても事情があるでしょうし、やりたい人、あまりやりたくない人がいてもいいのではないのでしょうか。「皆で盛り上がりよう！」というのは難しいように思います。ただ、区社協といきいきセンターの取り組みを尊重するように気をつけています。例えば区社協と地域の人々が一所懸命にカフェを開催しているのに、私たちが「カフェしますから、来てください!」と言えば区社協と地域の連携やコミュニティは壊れてしまいます。私たちはそれとは違う形でのお手伝いを考えています。「地域づくりをしよう」という言葉もよく聞きますが、地域はつくらなくても、すでにそこにあります。人々はどんな環境でどんな背景を持ち、どんな思いを抱いて暮らしているのか。そういうことを無視して地域をつくるのではなく、地域を知ることが大事なように思います。地域の人たちから「よかここネット」の人たちがそばにいるから安心だね、一緒に頑張れるね、と言ってもらえたら幸いです。

地元スーパーと連携した 見守り・居場所づくり



見守り



居場所



生活支援

南区

ほほえみカフェ

地域の概要

弥永校区は南区の南東部に位置し、春日市に隣接。柳瀬町、日佐町、弥永団地の3地区から成ります。昭和41～45年度に建設された市営弥永団地(47棟1500戸)は、老朽化のため平成25年度から建替工事が進んでいます。「認知症やその家族も含め誰もが安心して暮らせる校区」を目指し、民生委員、事業所、地元スーパーなどの協力を得て高齢者支援体制づくりに力を入れています。

- 人口 6,047人・3,160世帯
- 高齢化率 34.7%

連携している人々

- 校区社会福祉協議会
- 民生委員・児童委員
- 自治協議会
- 弥永公民館
- ほっとかれん隊(福祉・介護事業所・企業ネットワーク)
- のぞみ弥永(生活支援ボランティア)
- ダイキョーバリュー弥永店

お問合せ

南区社協事務所
TEL 092-554-1039



活動のきっかけと内容

弥永校区は47棟の大型団地を有し、南区で最も高齢化が進んでいる地域です。散歩や買い物に出て帰り道がわからなくなった高齢者や台所でのボヤ騒ぎをきっかけに見守り活動が盛んになりました。弥永公民館は民生委員、福祉・介護事業所ネットワーク「ほっとかれん隊」と連携して、平成29年度から「登録システム」を開始。高齢者本人と家族の同意を得て氏名や顔・体型の特徴を台帳で管理し、一部を館内に掲示して普段から特徴を覚えるよう努め、行方不明時の検索に生かしています。また、家族が相談できる場所を作ろうと、事業所スタッフらが参加する「ほほえみカフェ」を実施。中でもスーパーの店頭を利用した「ダイキョーカフェ」は買い物ついでに立ち寄り、血圧や骨密度測定を行っているため、120～130人の住民が参加するほど人気です。



活動の工夫

生活インフラの一翼を担うスーパーが地域活動に参加。従業員はレジでの高齢者との会話から名前や住まいを認識して、何度も同じ商品を買う、支払いを忘れるといった行動を見かけたら民生委員や公民館に連絡。登録台帳を共有し、気になる人が来店したら従業員が近くで見守ります。店頭は「声かけ訓練」の会場にもなり、民生委員が買い物客に「認知症の方と思って声をかけてみて」と話しかけ、若い年代の認知症に対する理解を深めています。

今後の展望

団地の階段がづらい、会場が遠いという人はカフェに参加できません。また電球替えなどの支援を望む高齢者は支援者との「おしゃべり」を楽しみの一つとしていますが、カフェへの参加につながっていない人が多いのも課題です。ボランティアの高齢化も進んでおり、人員増に向けてボランティア講座を行っています。

つながる 仕組み

- 見守り登録システムにスーパー、事業所ネットワークが参加。行方不明時に情報共有・検索に参加。
- 公民館運営懇話会に地元スーパーが参加。
- 認知症サポーター講座に小・中学校が参加。



関係者の声

校区社協・民生委員が協力 皆で情報共有して支えます

「校区社協と民生委員は車の両輪」という気持ちで活動しています。連携する人たちが同じ方向を向くことが大切なので、社協定例会や事業所会議、カフェに民生委員も参加しています。情報を共有し、すぐ連絡を取り合える関係になることで「気がかりな高齢者」に対して素早く対応できます。フットワークの軽い人に担当が偏りがちだから負担のないよう、皆で役割分担しています。



左:校区社会福祉協議会会長 山下 きよみさん
右:民生委員・児童委員代表 壇 京子さん

カフェの場所を提供している 地元スーパーに聞く

ダイキョーバリュー弥永店 店長 ^{うら た かずのぶ} 浦田一延さん



■ 地域に根ざしたスーパーに

「ダイキョーバリュー弥永店」は昭和45年に創業したスーパーです。創業当時は商店が立ち並ぶ激戦区。周辺が勢いを持つ中、伸び悩んだ創業者は「道徳心」を大切に、「社長を含め神様のお手伝いができる従業員にしよう」と心に決めたそうです。神様という宗教がっていますが、「人の役に立つ」ことなのだと思えます。隣で買った卵をお客様が当店で落としたら、当店の卵を無料でお客様に渡していました。イベントや夏祭りを開き、福岡市の大水時には井戸水を無料開放したこともあります。そのような地域との関わりを増やしていくうちに、今では多くのお客様で賑わうようになりました。

■ 買い物を通じて会話して欲しい

当社はフレンドリーな接客が持ち味。従業員はレジで高齢者によく話しかけるので、一見さんはイライラするかもしれません。一人暮らしの方は、自宅を出なければほとんど人と話さないでしょう。買い物は人と話す良い機会です。店では、買い物した商品の配達サービスを行っています。車で10〜15分のご自宅まで、最初は親切心で届けていたのですが、依頼が増えたため、今



は配達料として1回500円いただいています。配達時に部屋のドアノブに鍵がささったままの部屋や前日の弁当がそのまま残っている部屋を見つけ、公民館や民生委員さんにすぐ連絡したこともあります。次の配達があるため、連絡するのが精一杯でした。後で高齢者が部屋で倒れていたと聞き、発見が早くてよかったと安堵しました。



■ 月に1度ダイキョーカフェに

平成27年から月に1回、カフェ会場の一つとして店の一角を提供しています。椅子やテーブルは公民館から運び、従業員も業務の合間に顔を出して参加者と言葉を交わします。買い物ついでにふらりと立ち寄れるため、普段、公民館や地域行事にあまり顔を出さないような方々も参加していらっしゃるようです。令和2年度はコロナ禍のため中止となり、楽しみにしている方が多いだけに残念です。効率化・省力化を求める現代社会の中で、当社は真逆のやり方をしているかもしれません。しかし、「地域への協力」を社の方針として生き残ってきたのですから、これからも地域にできることはすべてやっていきたい。洗練されたことはできませんが、一生懸命やっていきたいと思っています。

介護施設を会場に飲食・物販 住民主体のカフェは大盛況



ふら〜っとカフェ吉岐南

地域の概要

吉岐南校区は、東側の室見川から、西側の叶岳〜飯盛山を結ぶ麓の丘陵地にかけて東西に広がる校区です。吉岐団地をはじめ、古からの集落が残る一方、平成17年の地下鉄七隈線開通を機に外環状線の全面開通や大型商業施設の開業が続いて街は大きく変貌しました。商業施設、病院、介護施設が立地する利便性の良さから今では福岡市西南部の拠点となっています。地域住民と商業施設、病院・介護施設等の連携によるまちづくり活動も活発です。

- 人口 10,384人・4,576世帯
- 高齢化率 37.0%

連携している人々

- 校区社会福祉協議会
- 吉岐南公民館
- 自治協議会
- 民生委員・児童委員
- 西第4・7地域医療福祉ネットワーク(4・7ネット)
- 吉岐・野方商店連合会
- 木の葉モール橋本、ほか

お問合せ

西区社協事務所
TEL 092-895-3110



■ 活動のきっかけと内容

高齢化率が市平均を大きく上回り、校区では高齢者の孤立化・孤独死が心配されました。校区社協や自治協議会、西第4・7地域医療福祉ネットワーク(4・7ネット)の有志で解決策を話し合ううちに「地域カフェを行おう」という声が上がリ、平成27年2月、吉岐南公民館で「ふら〜っとカフェ吉岐南」を開催。約100名の住民が集まり、大盛況でした。その後、参加者が増えて公民館が手狭になったため、「4・7ネット」メンバーの特別養護老人ホームマナハウスなどに会場を移し、吉岐・野方商店連合会や近隣企業に声をかけて物販も始め、月1回の開催日には毎回多くの住民が参加しています。

カフェの特徴として役割や担当を決めず、参加者が自発的に受付や会場設営、お茶出し等を行っています。小中学生も物販を手伝い、お年寄りの人気者となっています。



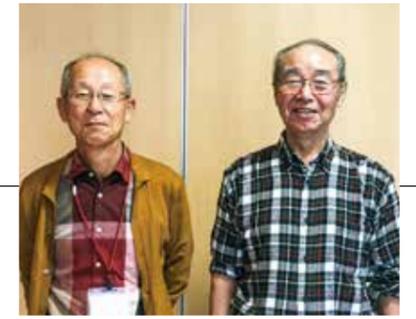
■ 活動の工夫

企業に協賛を募って案内チラシを作成し、全戸配布しています。施設車両を使って公民館から会場へのテーブル運搬や高齢者の送迎を行います。会場では青果、弁当、花、障がい者施設の菓子などの販売の他に、メイクやマッサージ、健康、相続、葬儀等のにわか相談会を実施。公民館サークルの練習の成果や住民の特技を披露するステージも設けており、毎回お祭りのようです。

■ 今後の展望

隣接する吉岐校区の介護施設も参加し、連携は校区を超えています。一度でも参加した人は570名に上り、1回の参加者は平均120名でそのうち3〜4割はボランティア住民です。小学生を連れた若い世代も参加しており、誰もが自発的に手伝う雰囲気から世代交代は自然に進むのではないかと期待しています。

住民がカフェ運営に参加する秘訣を実行委員会に聞く



吉崎南校区社会福祉協議会 会長 にいさと こうきち 新里幸吉さん(右)
吉崎南公民館 館長 ほんじょうとし お 本庄敏雄さん(左)

■ 高齢化率が高く、孤立を防ぐために

当校区の高齢化率は他に比べて高く、地域包括ケアについて、市の取り組みを待つだけではいけない状態でした。また、高齢者が集まる場所がなく、坂の多い地域で家から出ない人も多くみられました。孤立や孤独死を心配する人々が自然と集まり、「高齢者を外に引っ張り出し、地域の人たちと結び付きを持つ仕掛けはないか」と話し合っただけで生まれたのが「ふら〜っとカフェ吉崎南」です。

「とりあえずやってみよう」と吉崎南公民館で開催したら大反響を呼びました。2回目には人が入りきれなくなり、公民館では物販ができないので4・7ネットに相談しました。それまで私たちも施設の皆さんも互いに遠慮して声をかけられずにいましたが、これをきっかけに交流が始まり、3回目以降は介護施設のフロアを使わせてもらい、送迎も手伝ってくれて助かっています。



■ とびきりのオシャレをして参加

その後、吉崎・野方商店連合会や企業とつながりができ、会場にはさまざまなブースが並ぶように

なりました。ここ1カ所で野菜や花を買い、マッサージを受け、認知症診断や健康チェック、相続や葬儀の相談までできます。

参加者はとっておきの服を着てオシャレをして来ます。女性はメイクやネイルをしてもらい、来たときは別人のようになって喜んで帰っていきます。住民の方々の歌や踊りを見たり、おしゃべりをしたり、買い物をしたり、皆さん楽しそうです。

■ 自発的で自由なスタイルが続く秘訣

開始当初ここまで拡大すると思わず、楽な気持ちで始めたのが良かったのでしょうか。「エプロンを持ってきたらスタッフ」がうたい文句で、「誰かやって」と言う間もなく気づいたら誰かが受付や会場設営、お茶出しなどをやっています。忙しくて八百屋さんがブースを離れたら「それなら俺が」と、にわか営業部長が出てきて店番をしているし、売れ残ったら子どもたちが会場内を回って売りさばっています。情報共有のために実行委員会を月1回開いていますが、それも自由参加です。役を決めると時間に余裕のある高齢者が担うことになり、数年もすると体力的・精神的にくたびれてしまって形骸化しがちです。ここは「きついからやめる」と誰も言わないので楽しいのでしょうか。介護施設や各ブースの若い方々、子どもたちが一所懸命やってくれるので、私たちは安心して見えています。コロナ禍で残念ながらカフェは令和2年3月以降中止していますが、やめようという声は聞こえてきません。存在を忘れていないことを伝えるため、住所がわかっている人にはクッキーや住民が描いた絵を配り、「いつかやろうね」と話しています。

つながる仕組み

- 老人ホーム・介護施設で開催。送迎あり。
- 吉崎・野方商店連合会の商店や企業等が出店。会場で買い物ができる。
- 参加者が忙しい商店主に代わって販売を担当することも。
- 公民館サークル、住民によるステージあり(歌や踊りなど)。
- 認知症診断から入所、相続、葬儀まで相談OK。1カ所で終活できる。



Point!
子どもたちも参加

こだわりカフェ

- マスター自慢のコーヒー(公民館長)
- 茶菓子のサービス
- おもてなし(ボランティア・子どもたち)

Point!
買い物支援も!

販売

- 野菜果物(森青果)
- 漬物・餅・季節品(住民)
- 生花(お葬式のおおやぎ)
- 創作小物・パン・クッキー(いきいき工房、とわえもあ)
- 移動スーパー(とくし丸)

飲食

- 弁当(季ととき)
- サンドイッチ(シュテファン)
- たこやき・かしわめし・焼きそば(ころたこ)
- 抹茶サービス(茶道サークルなど)

終活・相続の相談

- 相談(わが家の119番、相続マインズ福岡、安心サポートネット)
- 相談(お葬式のおおやぎ)

イベント/月替わり

- 立体折り紙(手作りの会)
- 折り紙教室(住民) ほか

ミニ講座

- 医師、理学療法士、介護福祉士などによるミニ講座

Point!
ドア to ドアでラクラク移動

送迎

- マナハウス(予約受付担当)、サンライズ吉崎、リハモール福岡

ふら〜っとカフェ 吉崎南 実行委員会

地域住民 民間企業
介護・福祉事務所

健康相談

- 健康チェック・相談(村上華林堂病院、サンライズ吉崎)
- お薬相談・体組成計測定(タカラ薬局)
- 栄養相談(特別養護老人ホームマナハウス)
- 認知症診断(ケアプランセンターたぬき)
- 補聴器相談(アート補聴器)

介護相談

- 相談(特別養護老人ホームマナハウス、サンライズ吉崎、リハモール福岡、訪問介護さくら)

コラム 「てっだい隊」で生活支援

同校区では「てっだい隊」を結成して庭木の剪定や草取り、布団干しなどの支援を行っています。住民アンケート(回収率90%)で夜間や緊急時の相談を望む声が多かったため、特養ホームマナハウスが24時間受付・対応しています。無料だと遠慮して依頼が少ないので、利用料は30分100円。中学生もメンバーに加わり、大きな力となっています。



事業所・病院等が連携 公民館でカフェを開催



見守り



居場所



生活支援

東区

しろうおカフェおれんじ

地域の概要

多々良校区は粕屋町、久山町に接し、校区内を山陽新幹線、都市高速道、九州自動車道が走っています。校区東側には農村集落と田園地帯が広がり、西側には流通センターがあり、幹線道路沿いには大型店舗も多く立地します。平成21年の大雨による災害で被害を受けたため、校区を流れる多々良川を改修。平成28年3月に住民と行政による安全安心マップと防災マップが完成しました。

- 人口 13,745人・7,049世帯
- 高齢化率 21.6%

連携している人々

- 校区社会福祉協議会
- 自治協議会
- 民生委員・児童委員
- 多々良公民館
- ひがしかぜの会
(事業所や病院等の14団体)

お問合せ

東区社協事務所
TEL 092-643-8922



活動のきっかけと内容

東区の第6圏域では、「認知症の相談があまりあがってこない」「相談がきて、介護認定を受けたら要介護4と重度の状態だった」といった認知症が潜在化しやすい傾向の圏域でした。そのため、認知症の人や家族、地域住民が気軽に集える場所を作ろうと有志で話し、近隣の事業所などに声をかけ、14の事業所で「ひがしかぜの会」を結成し、地域住民とともにカフェを運営しています。カフェ当日は、認知症あるいは高齢期のさまざまな課題に関するミニ講話、地域のボランティアや中学校の吹奏楽部によるミュージックタイム、認知症に関する情報コーナー、医療・介護専門職による相談コーナーを設置しています。



活動の工夫

公民館まで来られない人がいるため、年に数回、各地の集会所にスタッフが出向いてカフェを開催しています。多の津の津屋本町公民館で開催した際には、抱樸館福岡（自立に向けた無料定額宿泊施設）の入居者が多く参加し、地域住民との交流がありました。入居者からは「普段、外の人と交流することがないので、とても楽しかった」「認知症について学べて良かった」との感想がありました。地域の人にとっては、抱樸館にどんな人がいるのか知る機会になり、カフェの場を通じて施設と地域の交流、相互理解につながっています。

今後の展望

子どもボランティアが飲み物やお菓子を参加者に運び、参加者がとても喜んでいました。子ども食堂に参加した子どもたちを招き、多世代交流が行われることもあります。認知症であっても、そうでなくても、高齢者も、子どもたちも、誰もが憩える、みんなの居場所として続けていきたいと思っています。

制度の枠を超えた 特養施設と地域の交流



見守り



居場所



生活支援

城南区

サロンなごみ・よりあいの森

地域の概要

田島校区はやや丘陵地帯を含む住宅街で、商業地域化の動向は見られず、安定した住宅状況が保たれています。昔ながらの近所付き合いが残る地区もあれば、新興住宅地でふれあいの少ない地区もあるため、子ども会とともに三世代交流を行っています。鎮守の森として地域に親しまれている田島八幡神社では、毎年夏に「田島神楽」が奉納され、福岡市無形民俗文化財に指定されています。

- 人口 10,571人・5,093世帯
- 高齢化率 25.8%

連携している人々

- 校区社会福祉協議会
- 民生委員・児童委員
- 特別養護老人ホームよりあいの森
- 自治協議会
- 子ども会

お問合せ

城南区社協事務所
TEL 092-832-6427



活動のきっかけと内容

真夏に自転車に寄りかかって町内を歩き回るお年寄りを心配する声が寄せられ、民生委員が話を聞くと、事情があり、制度も利用することができず、お手上げ状態であることがわかりました。田島校区との境に建つ特養施設「よりあいの森」(別府校区)に支援方法を相談するうち、「命が危険」と一時預かりしてくれることに。それをきっかけに校区を超えて「よりあいの森」との付き合いが始まり、施設に隣接する古民家が田島校区のふれあいサロンの会場になっています。サロンなごみには施設入居者や、別校区の施設に入居した高齢者を施設職員が連れてきて賑やか。参加者に変わった様子があれば「よりあいの森」職員が相談に乗っています。サロンの他にも三世代交流を実施。また、古民家は子育ての悩みを語り合ったり、遊びを通して子どもと大学生が出会う場にもなっています。

活動の工夫

施設職員が行方不明者の検索を行った経験から、サロン参加者は「よりあいの森」に氏名等を提供。異変の際は施設職員がすぐ行動し、地域住民の心強い味方になっています。台風の際は遠方に住む家族の相談を受け、施設職員とともに独居高齢者宅へ雨戸を閉めに行ったことも。「制度の枠外に本来のニーズがある」と、双方が困っている人のもとへ駆けつけています。

今後の展望

「高齢者が最期まで地域で暮らせるように」という住民と、「住み慣れた所で本人らしく過ごせるように」という施設の思いが重なり、助け合いが生まれています。困っている1人のために皆が集まって知恵を絞るようにし、この場で出会った縁を、これからも長く続けていきたいと考えています。



空家を地域の「宝」にする仕組み

少子高齢化、単身世帯の増加、ライフスタイルの多様化などにより、空家が増加しています。空家の発生は、放火や不法侵入などの防火面・防犯面、景観の悪化といった環境面などによる地域への影響があります。また、所有者不明の空家の存在が地域活性化対策の妨げになるケースもあり、現在、行政や住民などが一体となって取り組むべき社会課題となっています。

一方、小学校区や自治会・町内会などが取り組んでいる小地域福祉活動の関係者からは、「身近な活動拠点が不足している」「既存の公民館などは容量を超えて活用しづらい」といった声が上がっています。さらに「ふれあいサロンや地域カフェ

を始めたい」「子どもの居場所のための拠点が欲しい」「障がい者のグループホームが必要」などの相談も、福岡市社会福祉協議会には寄せられており、地域の福祉団体や福祉事業所から比較的低価格で確保できる拠点へのニーズが高まっています。この空家問題と、地域福祉の活動拠点の確保という二つの大きな社会課題を解決するため、福岡市社会福祉協議会と一般社団法人古家空家調査連絡会が共働して、空家の有効活用を効果的に進める「社会貢献型空家バンク事業」を立ち上げました。「空家を使ってほしい」という人と「社会福祉に活用できる物件を借りたい」という人を結び、活用につなげています。

活用事例1 なかしまホーム

東区

築45年の木造住宅を改修し障がい者の自立生活へ

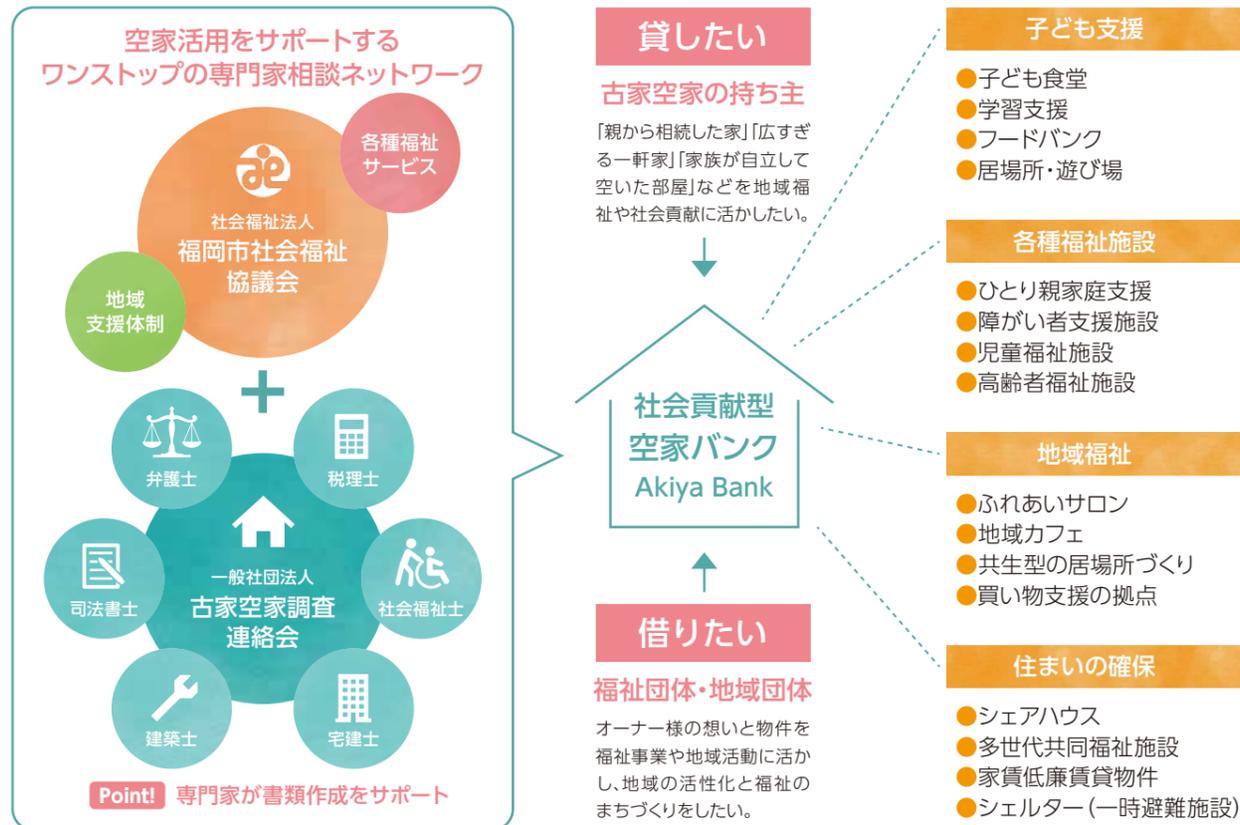
「福祉に役立ててほしい」と、築45年の木造2階建て中古住宅が東区社協事務所に遺贈されました。「なかしまホーム」と名付けられたその家を、将来の自立を目指して共同生活の場を探していた就労継続支援A型事業所「みかんの樹」が借りることに。近隣の人々に空家バンク事業と入居者を理解してもらうため、改修の漆喰塗りをワークショップにして参加してもらいました。それによって入居者と地域住民との顔のつながりが生まれたほか、改修コストを削減でき、新築の3分の1の費用でシェアハウスが完成しました。

「なかしまホーム」は個室と共有のリビング、台所を有し、グループホームから一人暮らしに向かうためのステップアップとして最大で4人が入居できます。入居者は仕事を休むことが減り、自分で洗濯したり、他者とのコミュニケーションが増えたりといった変化がみられるようになりました。支援者や地域住民の見守りによって、障がい者の生活の幅が広がり、自立した安心で豊かなものになっています。



社会貢献型空家バンク

【お問合せ】福岡市社会福祉協議会 相談支援課
住まい・まちづくりセンター TEL 092-720-5356



活用事例2 岩田商店

東区

住みながら空部屋をフリースクールに

岩田商店は、青果物や食品を販売する店舗付き2階建て住宅。昔から地域の商店として親しまれ、かつては家族が生活していましたが、近年は80代のご主人が店を営みながら独居生活を送っていました。多くの部屋が使われないままだったため、民生委員を通じて東区社協に相談がありました。ご主人や親族と話し合い、「地域の人々が集う場所にしたい」という希望から4部屋を認定NPO法人に貸し、平成31年4月から小・中学生のフリースクールとして活用されています。使いこまれて落ち着いた建物の雰囲気のため、児童たちもリラックスして通っています。

フリースクールは平日の昼間に開校しているため、ご主人はほぼ毎日通ってくる児童と顔を合わせます。それが見守りとなっており、ご主人や親族の安心につながっています。家賃収入はご主人の生活費にあてられ、在宅生活を支えています。今後は、ご主人が児童と一緒に、趣味の将棋を指す姿も見られるかもしれません。



ご近所ボランティアを含め 約100名で校区を見守り



中央区

ふれあいネットワーク

地域の概要

草ヶ江校区は、万葉集にその名が見える草香江、福岡藩の武士が住んでいた浪人谷、馬屋谷を編入した谷、福岡城下を目指す人々の目印とされた六本の松に由来する六本松と、城内の一部から成ります。昭和2年に大濠公園で開かれた博覧会を機に城南線が開通し、現在も交通の要衝として副都心的な性格を持っています。九州大学跡地に福岡市科学館、裁判所、検察庁、弁護士会館、商業施設、大型マンションなどが建ち、大きな変貌を遂げています。

- 人口 16,605人・8,872世帯
- 高齢化率 18.9%

連携している人々

- 校区社会福祉協議会
- 自治協議会
- 町内会連合会
- 民生委員・児童委員
- 老人クラブ
- 草ヶ江公民館
- 住民ボランティア ほか

お問合せ

中央区社協事務所
TEL 092-737-6280



活動のきっかけと内容

「向こう三軒両隣」の風土が残る六本松1丁目で民生委員を中心に「ご近所ボランティア」に呼びかけ、高齢者への声かけ活動がスタート。その後「ふれあいネットワーク」が作られると、声かけや見守り活動は校区全体に広まりました。さらに校区では「ふれあいネットワーク」研修会を実施し、研修会の後に町内ごとに分かれ、気になる高齢者の情報を整理して「見守りマップ」を作成。配食サービスを利用して聞き取った見守り希望の有無、氏名・家族の連絡先等と一緒に台帳にまとめ、連絡がすぐ取れるように同意に基づき、民生委員と町内会長が持っています。

最近「向こう三軒両隣」から「お隣さん」へシフト。見守り希望者の隣家・隣室に声をかけ、郵便物があふれたりすれば民生委員らに連絡をくれるよう依頼しました。見守り活動が「線」から「面」へと広がって行くことを期待しています。



活動の工夫

「ふれあいネットワーク」の構成人数は民生委員・町内会長ら約40名、ご近所ボランティア約50名を含め約100名に上ります。多くの人に参加してもらうため、研修会は認知症や健康に関する講話、施設見学など、住民の関心の高いものを取り入れています。校区社協役員や町内会長らの誘いで民生委員やボランティアになった人もいて、地道なクチコミ活動が実を結んでいます。

今後の展望

屋外で倒れて警察が保護したり、連絡がつかず親類が捜している人も台帳に載っていない人もいて、見守り希望者ばかりが見守り対象者と限りません。また60代は親の介護で活動を離れる人も多く、若手のボランティアも必要です。町内会で差異のない活動が望まれ、より良い活動に向けて試行錯誤は続いています。

つながる 仕組み

- 「見守り台帳」「見守りマップ」を作成し、ネットワーク班で共有している。
- 年に4回の研修会は関心の高いテーマで開催され、毎回100名を超える参加がある。
- 研修会の情報はクチコミでも広がり、ネットワークの新たな参加者獲得につながっている。



Point!
研修会に
参加

笹の葉会
(ケアマネ会)

会議・研修

- 役員会・委員会 (月1回交互に開催)
- ネットワーク研修会 (年4回)
- ネットワーク通信 (年2回)

ふれあう活動

- 高齢者サロン (月1~2回) …6箇所
- 子育てサロン (月2回)
- 高齢者配食 (80歳以上)
- 福祉赤飯 (80歳以上)

見守り活動

- 訪問・声かけ
- 福祉サービスへのつなぎ
- 安否確認訓練
- 見守り台帳
- 見守りマップ
- 不在時訪問カード
- 個人情報手引き
- 個別計画票

ふれあい ネットワーク ひまわりの会

民生委員
児童委員町内会
連合会ご近所
ボランティアPoint!
約50名が
参加老人
クラブ青少年育成
連合会

公民館

男女共同
参画協議会人権尊重
推進協議会食生活改善
推進員協議会子ども会
育成連合会小・中学校
PTA

関係者 の声

困った人を助けたくて チラシに連絡先を記して配布

心配な人の情報を寄せてほしくて、チラシに私たちの氏名・連絡先を記載して配布しています。連絡先を公にするのをためらう人もいますが、命の危険につながる相談があったので載せて良かったです。個人情報保護法によりマンション住民の情報を得るのは難しく、今後は管理会社との連携も必要です。体が不自由な方など支援を望む声は多いので、町内で協力しながら支援していきます。



左：町内会長
右：民生委員・児童委員

なかしま こうじ
中嶋 公二さん
くにもと かずお
國本 和男さん

担い手不足の解消法を 校区社協会長に聞く

草ヶ江校区社会福祉協議会

会長 竹下 浩子さん



知人をボランティアに誘う

草ヶ江校区では、平成9年12月に「ふれあいネットワーク」が発足しました。同ネットワークには約50名のご近所ボランティアが加入し、日常の見守り活動に協力してもらっています。ネットワーク発足当初から知り合いに声をかけ、協力を仰いできたのですが、平成26年に「見守り台帳」の情報を整理した際、見守り希望者数に対して見守る人数の少ないことに改めて気づき、校区社協会員や民生委員が知り合いへの声かけを強化して人数が増えていきました。

住民の関心を引く講座・研修を実施

現在、校区社協や民生委員、町内会など各種団体で「ふれあいネットワークひまわりの会」を形成し、さまざまな活動を行っています。これらの活動の担い手を増やしていくには、ネットワークの趣旨や活動を理解してもらう必要があります。そこで年に4回「ふれあいネットワーク」研修会を開催し、多くの人が興味を持ち、参加したくなるような内容で企画しています。例えば、健康に関する講座、入所施設の見学、パントマイム披露などを行い、見守り対象者の情報交換会では「カードゲーム」を使って声をかけ合う仕組みを伝えました。



その甲斐あって研修会には役員やボランティアを含め約100名が参加し、毎回活況を呈しています。研修会終了後は、私たち役員が参加者宅を訪ねてお礼を言い、そういった関係者の小さな行動の積み重ねが今に至っているのだと思います。

令和2年度はコロナ禍のため、町内会長や民生委員などに人数を絞ってオンライン研修を実施。たろうクリニック（東区）の内田直樹医師と草ヶ江公民館をオンラインでつないで認知症についての講話を聞き、質疑応答を行いました。初めての試みでしたが、うまくいき、好評でした。これからもできることを続けていきたいです。



さまざまな活動を通じて人材を発掘

住民の皆さんが退職後、生き甲斐の一つとして地域活動に参加し、ご近所ボランティアや民生委員、町内会長になっていただけるといいのですが、60代は親の介護と重なり、活動できる人は決して多くありません。研修会に参加した後、民生委員を引き受けてくださった方もいるので、研修会は50代の方々にも声をかけています。公民館のサークル活動やPTA活動など、さまざまな活動を通して多くの人と知り合い、人材を発掘して育てていくことも私たち役員の務めだろうと思っています。

家屋の修理修繕を通じて 高齢者の見守りに



三苦宮繕おたすけ隊

地域の概要

三苦校区は平成8年に和白校区から分離した校区で、東区の最北端に位置します。東側に西鉄貝塚線が運行し、西側には玄界灘を望む海岸線が広がります。近年は集合住宅を中心とした宅地開発が進み、人口は増加傾向にあります。平成26年～28年に高齢者支援を考える福祉座談会を実施し、「三苦校区目配り気配り安心プラン」を作成しました。地域の結束力が強く、住民4,000～5,000人が集まる「まつり三苦」がその源になっています。

- 人口 9,345人・4,113世帯
- 高齢化率 19.2%

連携している人々

- 校区社会福祉協議会
- 自治協議会
- 三苦公民館
- 民生委員・児童委員
- 老人クラブ

お問合せ

東区社協事務所
TEL 092-643-8922



活動のきっかけと内容

三苦校区は、ボランティア参加を促す「地域デビュー講座」や、犬の散歩時に高齢者を見守る「ワンワンパトロール」など、住民の関心を引く講座・活動に力を入れており、地域に根差したボランティア活動が盛ん。住民800人が登録する携帯電話の「安心メール」を使って講座や防災・防犯情報を発信しています。

「三苦宮繕おたすけ隊」は平成25年、高齢者支援として有志で設立したボランティアグループです。雨戸や網戸の修繕、蛍光灯の交換、庭木の手入れ、通販商品の組み立てなど「ちょっとしたお困りごと」の支援を行っています。隊員は、各町内から数名ずつクチコミで募った70歳前後～80代後半の19名。公民館が相談窓口となり、隊長を通じて町内の隊員が無料（材料費実費）で訪問。中には電気工事士やボイラー技士資格を持つ隊員もいて、仕事で培った技術や経験を活かした支援は相談者に喜ばれています。



活動の工夫

「ふれあいネットワーク」や民生委員からの相談もあるため、隊長は校区社協と連携して高齢者の情報を共有しています。また、隊員は支援のため相談者の台所に入ることも。台所は生活状況が見え、困りごとの把握につながりやすいものです。見守りを行うボランティアや民生委員は基本的に玄関先での訪問活動が多く、同隊の情報は貴重な情報になっています。

今後の展望

関係者が高齢者と信頼関係を築き、活動状況や情報を共有することで幅広い見守りや支援につながります。「まつり三苦」などイベントの準備過程が関係者が顔見知りになる機会であり、地域住民の結束力と信頼を高める貴重な場でしたが、コロナ禍でそれが失われ、関係者は新たな機会・方法を考えています。

商店街・民家が協力 高齢者の駆け込み寺



見守り



居場所



生活支援

早良区

シルバー110番

地域の概要

高取校区は3つの商店街があり、交通利便性が高いため人口が多く、30～50代が人口の約4割を占めます。子どもの健全のため地域の世話人や保護者が自主的に校区活動・公民館活動を支援しています。独居高齢者率は高く、民生委員や自治会長らが声かけ活動を実施。絆カフェ（地域カフェ）は100～300円で軽食を用意し、約100名が参加します。また校区では平成7年のユニバーシアード福岡大会をきっかけに外国人との交流が続き、これまでに45カ国260人の外国人による読み聞かせを行いました。

- 人口 17,232人・8,505世帯
- 高齢化率 15.7%

連携している人々

- 校区社会福祉協議会
- 自治協議会
- 民生委員・児童委員
- 男女共同参画協議会
- 高取公民館
- 西新中西商店街組合
- 高取商店街振興組合
- 藤崎商店街組合
- 高取小学校・中学校

お問合せ

早良区社協事務所
TEL 092-832-7383



活動のきっかけと内容

商店街で道に迷う高齢者や、散歩途中で道に座り込む高齢者を見かけることから、校区では高齢者の駆け込み寺として平成28年に「シルバー110番」事業を開始しました。公募作品の中から当時小学5年生の「高齢者と子どもが手をつなぐ」イラストを採用してプレートを作成。民生委員や自治会役員、住民ボランティア、商店がプレートを掲示し、道案内や、困っている高齢者を保護するスポットとしています。高齢者を保護したら公民館に連絡。ふれあいネットワークの民生委員や自治会長が見守り台帳をもとに家族に連絡しています。

夏は熱中症が懸念されるため、銀行や薬局、大手コンビニなど幅広い業種にプレートの掲示を依頼。掲示箇所は開始当初の30ヶ所から現在86ヶ所に増えています。

活動の工夫

「シルバー110番」の理解と周知を図るため、世代を超えて活動を実施。「シルバー110番を探せ」と称して中学生と一緒にマップづくりを行い、プレートの少ないエリアでは生徒たちが商店に掲示を依頼しました。商店街では理事長を通じて商店に依頼。商店が「お金を持たずに買い物する」といった高齢者の気になる行動を見かけたら、公民館に連絡。子どもや商店従業員の認知症に対する理解も深まっています。



今後の展望

「シルバー110番」にちなみ、掲示スポットを110ヶ所に増やすことが目標。道を歩く地域住民に「困った高齢者を連れていける場所」と認識してもらうには、商店以外の幅広い世代への周知も必要です。フットワークの軽い子どもたちの協力を得ながら、ウォークラリー等を通じて活動を広めていくようにしています。

事業所を加えた連携で 災害を想定した訓練実施



見守り



居場所



生活支援

南区

地域福祉ネットワークチーム鶴田

地域の概要

鶴田校区は、福岡市のベッドタウンとして発展している那珂川市に隣接しています。福岡市から那珂川市へ続く幹線道路が整備され、かつての農業地帯から住宅地域へと姿を変えています。高齢化率は30%を超え、校区社協、自治協議会、民生委員、ボランティアらによる「ふれあいネットワーク」をはじめとした重層的な高齢者の見守り活動や世代間交流が盛んです。

- 人口 7,215人・3,187世帯
- 高齢化率 32.3%

連携している人々

- 校区社会福祉協議会
- 自治協議会
- 鶴田公民館
- 民生委員・児童委員
- 男女共同参画協議会
- 老人クラブ
- 子ども会
- 事業所(5カ所)ほか

お問合せ

南区社協事務所
TEL 092-554-1039



活動のきっかけと内容

鶴田校区は「ふれあいネットワーク」をベースに高齢者の見守りを行ってきました。過去の地震や豪雨をきっかけに「有事の際、同ネットワークだけでの安否確認・避難誘導は難しい」と感じ、長年の協議の結果、事業所と一緒に「地域福祉ネットワークチーム鶴田」を結成しました。町内会単位の「見守りマップ」にハザードマップをリンクさせて校区全体の見守りマップを作成。災害時には自治協議会会長をトップにした対策本部の設置や関係者への指示系統、役割、動き方も決めていきます。令和2年9月の台風の際は、前々日に避難所の公民館・小学校体育館に2m間隔で印をつけ、避難所としての役割の確認と設備などの点検を実施。前日から避難者を受け入れました。安否確認は各町内の担当者が行き、要支援者の迎えの要請には事業所が対応しました。「日頃からの支えあい・助け合い」を大事にし、それが災害時に生きると実感しています。



タイムラインで動きを確認

活動の工夫

自治協議会や町内会を中心に日頃から会合を重ね、情報共有と災害時の動きを確認。防災訓練では応急手当や炊き出しの練習もしました。豪雨や台風の後には動きを見直し、改善もしていません。災害時は誰もが被災者になり、担当者が必ず対応できると限りません。災害時は対策本部が校区見守りマップをもとに各町内の担当者に指示を出し安否確認や避難所などへの誘導をしています。

今後の展望

地震は市全域の被災が考えられ、避難所の運営等を地域で担うこととなります。現在想定している対策本部は男性中心ですが、さまざまな災害に柔軟に対応できるように女性の力も必要です。「チーム鶴田」を校区全体に広げ、「ご近所力」による安心・安全な支援体制を目指しています。

消防分団予防指導員と 民生委員が高齢者宅へ



見守り



居場所



生活支援

西区

消防分団と民生委員による合同訪問

地域の概要

周船寺校区は糸島市に隣接し、校区の中央部をJR筑肥線、国道202号、同バイパス、西九州自動車道が通ります。九州大学伊都キャンパス移転が完了し、かつての田園風景から急速に都市化が進み、校区内には新しく移り住んだ方や海外からの留学生を含め若い世代が増加しています。平成29年には、一部が西都校区に区分し、8町から6町になりました。校区の各種団体だけではなく、福祉・介護事業所、企業、学校などとも協働しながら、校区全体で明るく住みよいまちづくりに取り組んでいます。

- 人口 11,182人・5,119世帯
- 高齢化率 22.2%

連携している人々

- 校区社会福祉協議会
- 自治協議会
- 民生委員・児童委員
- 西消防団周船寺分団
- 周船寺公民館

お問合せ

西区社協事務所
TEL 092-895-3110



活動のきっかけと内容

周船寺校区では平成10年に、自治会長(町内会長)、老人クラブ、消防分団、男女共同参画協議会などで「ふれあいネットワーク」を設立しました。約50名の見守り希望者が同ネットワークに登録し、本人の同意に基づき、民生委員と自治会長(町内会長)で共有しています。普段は住民ボランティアや組長、民生委員が見守るほか、校区内の企業等(新聞のエリアセンター、商工会、福祉・介護事業所、病院)も見守りに協力しています。活動の特徴は、民生委員が消防分団の予防指導員と一緒に見守り対象者宅を訪問することです。緊急時に備え、「家の場所と本人の特徴を知っていれば救助が早い」と団員から喜ばれています。また校区社協は高齢者に「緊急連絡カード」を配布。カードには民生委員や自治会長(町内会長)、予防指導員、住民ボランティア、かかりつけ病院等の名前と連絡先を記入し、冷蔵庫など目につく場所に貼り、異変の時に役立てています。



活動の工夫

大雨や地震等の災害時に大きな力となるのが地域の消防団員です。救助要請を受けて家がわからないことのないように、民生委員と年1回、見守り対象者宅を訪問します。合同訪問だと情報を得やすい、高齢者は安心できると、三者から喜びの声が上がっています。また民生委員は、ボランティア手作りの絵手紙を持って訪問するなど、普段から高齢者とのふれあいに工夫をしています。

今後の展望

熊本地震被災地で「寝ている場所がわかれば救助が早い」と聞き、寝室の情報を収集・共有すべきか、ネットワーク推進委員会で協議しましたが、プライバシーに関わるため情報を得にくいと判断し共有に至っていません。今後、見守り対象者の増加が見込まれ、ボランティアの増員と災害時の避難支援が課題です。

ガス会社が見守りや ふれあいサロンに参加



見守り



居場所



生活支援

早良区

ガス会社・大学・地域の産学官連携

地域の概要

田隈校区は早良区の中心に位置し、地下鉄七隈線や外環状線、都市高速道野芥インターの開通などにより利便性が高くなっています。やさしさ、あたたかさのある明るい地域社会を目指し「思いやり心はぐくむふるさと田隈」づくりに取り組み、平成27年には「田隈安全安心少年隊」を作って子どもたちのモラル・マナー向上に向けて自主的な防犯活動も行っています。高齢化率は高く、田隈団地集会所など6カ所で「ふれあいサロン」を行っています。

- 人口 8,173人・3,945世帯
- 高齢化率 26.7%

連携している人々

- 校区社会福祉協議会
- 自治協議会
- 民生委員・児童委員
- 西部ガス・カスタマーサービス株式会社福岡西事業所
- 福岡大学看護学科

お問合せ

早良区社協事務所
TEL 092-832-7383



活動のきっかけと内容

西部ガス・カスタマーサービス(株)は都市ガスの検針・ガス設備点検を行っている会社です。検針員が検針時に高齢者宅の異変に気づいたり、転倒した高齢者を助けることがあるため、地域貢献活動の一環として、以前から交流のあった福岡大学看護学科を通じて校区社協の活動に参加することに。平成28年には381名が認知症サポーター養成講座を受講し、その後24名の検針員が同大学で高齢者のケアに関する講座を10ヵ月間受講。実践としてふれあいサロンで高齢者とふれあい、民生委員との合同研修を行いました。現在、点検業務を担う社員を中心にふれあいサロンに参加しています。検針員はガスの使用がない、庭が荒れている、郵便が溢れているといった異変に気づいたら、区社協やいきいきセンターを通じて民生委員に連絡するなどの見守り活動をしています。



活動の工夫

同社は「社員が高齢者や地域活動を知り、超高齢社会へのリテラシーを上げることが大切」と、福岡大学の産学連携の取り組みに積極的に参加。特に検針等で消費者と顔を合わせる最前線の社員が参加しました。ふれあいサロンでは企業色を出さず、活動を担う一員として参加しています。今後、ふれあいネットワークへの参加も目指しています。

今後の展望

活動が地域に定着するには、信頼される企業であり続けること。同社はその努力をし、活動を他の事業所に広げ、担当者が異動しても継続できるような体制づくりを進めています。活動に参加する社員は自身の将来の姿として捉え、人生を考えるきっかけにもなっています。退職後、地域活動への参加も期待されます。

タクシー会社と連携して 行方不明者を早めに発見



博多区

いまどこシステム

地域の概要

板付北校区は板付団地、板付南団地を有し、流通・工業施設や、自動車販売店、外食産業などのサービス関連施設が並びます。校区の高齢化率は約30%に上り、高齢者の見守りが大きな課題。自治会や民生委員を中心に団地住民への声かけや板付北会館でのカフェを行っています。また子どもの見守りや防犯の目的も含め、住民ボランティア80名を2~3名のチームに分けて毎昼夜、パトロールを実施しています。

●人 口 7,165人・3,612世帯
●高齢化率 30.3%

連携している人々

- 校区社会福祉協議会
- 自治協議会
- 民生委員・児童委員
- 板付北会館
- 有限会社春吉タクシー

お問合せ

博多区社協事務所
TEL 092-436-3651



活動のきっかけと内容

板付北校区は博多区で2番めに高齢化率が高い地域です。親の認知症を周囲に知らせず悩む家族の姿や団地での孤独死をきっかけに、校区では「安心して外出できるまちづくり」を進めてきました。家族が高齢者の外出を恐れず、行方不明になっても捜索や連絡がスムーズに行えるよう、連絡網の形成に取り組んでいます。福岡市の「認知症の人の見守りネットワーク事業」の活用とともに、市の共創コネクタールのはたらきかけにより、地元の春吉タクシーと協定を締結しました。

今後、連携の仕組みを整備する予定です。例えば、板付北会館が徘徊の連絡窓口となる→会館からタクシー会社に連絡する→

無線で運転手に行方不明者の服装や姿形を伝える→運転手が該当者を見つけたら会社に連絡する、というように。板付北会館をはじめ関係機関との連携に向けて調整を進めています。



活動の工夫

春吉タクシーは地域貢献への意識が強く、運転手らが「認知症サポーター講座」を受けて高齢者への声のかけ方やサポートの仕方を学んでいます。運転手は地域に住む人が多く、平均年齢は64歳。運転手の共感を得やすいことも連携に役立っています。同社では今後の連携の広がりにも備え、グループ会社共通の無線に加えて自社無線も導入しています。

今後の展望

今後は、校区内でクリニックを運営する「がんクリニック」とも連携を広めて、事業所や地域住民が一体となって実績を積んでいく予定です。また福岡市が行っている子ども向け端末機器による「見守りシステム」の活用など、新しい方法も模索しています。

外国人の見守り・交流に役立つ 規約・不在者カードの外国語版



東区

県営高須磨団地 外国人入居者支援

地域の概要

東箱崎校区にはJR鹿児島本線、西鉄貝塚線、市営地下鉄線が運行し、鉄道に並行して国道が通ります。県営住宅、市営住宅、UR都市機構住宅等の高層住宅群が建ち、校区住民の大半が居住。外国人の方々も多く住んでいます。校区は広大な九州大学箱崎キャンパスを有していましたが、平成30年に西区への移転が完了し、跡地利用が注目されます。

●人 口 7,080人・3,790世帯
●高齢化率 23.4%

連携している人々

- 県営高須磨団地自治会

お問合せ

東区社協事務所
TEL 092-643-8922



活動のきっかけと内容

県営高須磨団地(全10棟)は昭和57~59年に建設された団地で、現在約500世帯が暮らし、そのうちの約2割が外国人入居者です。過去には、文化や風習の違いによるトラブルがありました。そこで、外国人の方々暮らしやすいように、団地では規約の外国語版(英語、中国語、韓国語)を準備。入居時に棟の管理人がそれを渡して説明しています。また長期休暇に帰国して連絡が取れず心配する声があったため、高齢者向けの不在者カードを外国語表記にし、留守にする際は管理人に渡してもらうことにしました。コロナ禍で外出自粛となり、まだ運用に至っていませんが、今後活用していく予定です。



活動の工夫

自治会長を中心に管理人や棟長などが連携して、台風や豪雨時の情報提供や、生活習慣の違いによる相談に乗り、公社や関係機関につないでいます。団地自治会主催のイベントや校区の祭り、運動会に誘うことも。行事やイベントを通じて子ども同士が仲良くなることで交流の幅が広まり、国際交流・世代間交流につながっています。



今後の展望

40年に渡る工夫と改善によって住民の意識は変化し、交流が広がっています。「分け隔てなく交流する子どもを通じて、さらに外国人入居者との仲は深まるでしょう。団地住民とうまく暮らしていきたいという外国人の声も聞いており、地域活動などでコミュニケーションの機会を増やしたい」と団地住民は話します。

お困りごとを地域で解決 コミュニティビジネス



見守り



居場所



生活支援

東区

わが街コンシェルジュ

地域の概要

美和台校区は緑豊かで閑静な住宅地が広がります。高齢化率が高い一方、新しく転居してきた子育て世代も多いことから地域活動が盛ん。一人暮らしの方へのふれあいランチや高齢者サロン、子育てサロン、地域カフェの運営等に力を入れています。平成22年に校区で初めて博多どんたくパレードに参加して以来、毎年参加。ボランティア活動として、熊本地震時は西原村、九州北部豪雨では朝倉市杷木地区の復旧支援も行いました。

- 人口 15,593人・7,028世帯
- 高齢化率 28.1%

連携している人々

- 校区社会福祉協議会
- 自治協議会
- 民生委員・児童委員
- 美和台公民館
- 合同会社心くばりコーポレーション
- エムズ美和台店、ほか

お問合せ

東区社協事務所
TEL 092-643-8922



活動のきっかけと内容

美和台校区は、地域包括ケアを基盤に校区社協や事業者が連携し、地域資源を活用して人々を支援・共生するまちづくりに取り組んでいます。そのプラットフォームとして技術を持った住民有志で合同会社心くばりコーポレーションを設立し、事業として「わが街コンシェルジュ」を始めました。ここでごみ出し、買い物代行、掃除などを受け付け、それを「サブコンシェルジュ」が行います。「わが街コンシェルジュ」はいわば地域の人材バンク。庭木の剪定、家具や靴の修理等の技術を持つサブコンシェルジュもいて、話し相手から専門性の高い作業まで幅広く対応しています。コロナ禍においては、民生委員・児童委員やヘルパー、ボランティア住民に代わって支援を行い、見守りや学童保育等に大きな力を発揮しました。介護保険でまかなえないようなサポートも行い、コミュニティビジネスとして経済が地域内で循環するよう期待されています。



活動の工夫

高齢者が利用しやすく、サブコンシェルジュにとって生活の糧になるよう価格を設定しました。利用は会員登録制で毎月2,000円（月2回訪問）。安否確認をする安心コール（800円）や、掃除、洗濯代行などの作業（60分2,000円〜）はその都度の料金になります。移動販売による買い物支援・お買い物商品のお届けもあります。価格は年金収入に応じています。

今後の展望

依頼者のニーズに応じていくにはサブコンシェルジュの増員が必要。短時間の仕事をしたい人や介護離職で地元に戻った人、行政書士など専門職の人など幅広く募っていく予定です。葬祭場や商店、ケアマネージャーなどをコンシェルジュとして地域に増やし、小回りのきくコミュニティビジネスを目指しています。

わが街コンシェルジュの仕組みと これからの校区社協会長に聞く



美和台校区社会福祉協議会 会長 しろしたくによし 城下邦芳さん

地域のお困りごとをビジネスに

「わが街コンシェルジュ」は地域のお困りごとを解決する便利屋さんです。家の掃除や片付けなど、どんな相談にも乗っています。今、見守りは民生委員・児童委員を中心に行っていますが、高齢者が増えればその方々だけでは足りません。ボランティアに託したくても超高齢社会が進めば働く高齢者は増え、ボランティアも足りないでしょう。一方、社会保障制度の狭間に取り残され、支援を受けられずに悩む高齢者もいます。それらの課題を解決し、長く支援を続けていくには、人材を含めた地域資源を活用し、コミュニティビジネス化すべきではないか、と考えました。家具の修繕や靴の修復などを行っている「あらし修福堂」の代表・荒木和久さんを中心に合同会社を設立し、「わが街コンシェルジュ」を始めました。

令和元年に仕組みを整え、令和2年の今年から本格的に活動を始めようとしたのですが、コロナ禍で地域のコンセンサスを得られていないので、残念に思っています。しかし、活動できないボランティアに代わって見守りを行ったり、学童保育の学生

ボランティアを集めたりして関係者から喜ばれました。恐る恐るのスタートでしたが、コミュニティビジネスの可能性を感じた次第です。

価格体系を整え継続していく

コミュニティビジネスとして成り立たせるため、価格体系も整えました。登録制にし、毎月2回の訪問で2,000円。低所得の方は減額し、差額は積み立てた町内会費を充てられるよう、自治協議会に働きかけています。また、磁気カードを再利用してポイントカードを作り、公民館や集会所でポイントを貯め、ポイント交換による利用システムも構築中です。クラウドファンディングやふるさと納税も考えていきたいと思っています。

今後、地元の高校と協働して耕作放棄地で農業を行うといった活動に広げ、ゆくゆくは地域の人々が地域の中で広く交流し、労働力、経済が循環する地域社会を目指していきたい。地域に魅力があれば、大きくなって地域に帰ろうと思う子も増えるでしょう。私は、そんな理想に向かって「わが街コンシェルジュ」で頑張っている若い人を支えていきたいと思っています。

わが街コンシェルジュの仕組み



子どもの発達が気になる 家族の居場所



見守り



居場所



生活支援

南区

ひとりじゃないよ

地域の概要

若久校区は戸建住宅中心の区域と集合住宅中心の区域とが比較的分かれた住宅街です。校区自治協議会は3月20日を校区防災の日に定めて住民の防災・防犯の意識を高め、「安全で安心して住み続けられるまちづくり」を推進しています。また、校区三大事業(若久まつり、運動会、グラウンドゴルフ大会)に代表される催しを通じて「人と人とのつながりを大切に、支え合うまちづくり」を進めています。

- 人口 11,468人・5,497世帯
- 高齢化率 21.8%

連携している人々

- 校区社会福祉協議会
- 若久公民館
- 民生委員・児童委員
- 福岡市発達障がい者支援センター
ゆうゆうセンター

お問合せ

南区社協事務所

TEL 092-554-1039



活動のきっかけと内容

「ひとりじゃないよ」は発達障がいの子どもの育てる家族の集まりです。代表の吉田真由美さんは転勤族。地域に友人がなく、発達障がいのある息子と向きあう日々でした。平成20年、母親が発達障がいの子どもの殺める事件が起き、他人ごとに思えなかったと吉田さんは振り返ります。「胸のうちを話せる場所を作れないか」と民生委員に相談すると、校区社協、公民館に掛け合ってくれて会が生まれました。以来、若久小学校で出会ったお母さんたちと一緒に毎月2回、若久公民館で集まりを開いています。集まりに来て最初は泣いて子どもの話をしていた女性も帰りには笑い、何度か訪れるうちに泣かなくなるといいます。先輩ママの吉田さんたちを見て希望が見えてきたという人も。悩んでいるのはあなたひとりじゃない。孤立しないで誰かとつながって欲しい。会の名前に込められた思いが広がっています。



活動の工夫

「会に来るだけでも、お母さんには勇気がいる」と吉田さん。楽に付き合えるよう規則はなく、校区内外から参加者を受け入れて会員名簿は作っていません。問題解決を目的とせず、話を聞き、経験談や、支援機関・作業所の情報を伝えています。話すことを無理強いしないので話をジッと聞いているだけの人もいます。時折ゆうゆうセンターから講師を招いて研修会を開いています。

今後の展望

発達の遅れが気にかかっても障がいを受け止められず、一人で悩む母親は多いものです。会の存在を知らせるため、リーフレットを作って3歳児健診会場や関係機関で配布しています。保健師や民生委員から会を伝えてもらっていますが、安易に声をかけられず、悩む家族へのアプローチが課題です。

公民館サークルを経て 共同作業所の誕生、連携へ



見守り



居場所



生活支援

南区

花畑福祉作業所連絡会(通称:はなされん)

地域の概要

花畑校区は自然豊かな校区でしたが、都市高速道路や福岡外環状道路の建設とともに田畑の宅地が進み、住宅密集地域が広がっています。人口は9,000人を超え、単身世帯が増加傾向にあります。平成25年度には地域住民の作詞作曲で校区の歌を作るなど、自治協議会や諸団体、公民館が連携してまちづくりを進め、それと同時に「弱者にやさしい地域づくり」も行っています。

- 人口 9,343人・4,262世帯
- 高齢化率 26.6%

連携している人々

- 校区社会福祉協議会
- 自治協議会
- 民生委員・児童委員
- 花畑公民館
- 知求工房アビリティィー
- あったかホーム

お問合せ

南区社協事務所

TEL 092-554-1039



活動のきっかけと内容

小学校の中・高学年頃から障がい児と障がいのない子どもと一緒に遊ぶ機会が減り、障がい児は常に母親と共に行動し、家に閉じこもる傾向にありました。障がいがあっても友達と一緒に地域の中で生き生き暮らそうと、平成8年、2組の母親が「どんまいクラブ」を結成。公民館の協力を得てサークルの一つとして活動し、公民館に集う地域団体や利用者との関わりが増えていきました。平成14年には自立に向けて「作業所を作る会」を立ち上げ、毎月バザーを開催。校区社協や自治会、公民館の協力のもと、地域住民との関係づくりを行って共同作業所「はな」が誕生しました。その後、校区内にある3つの作業所と一緒に連携・交流を目的に「花畑福祉作業所連絡会」を結成。地域団体との共催でバザーやイベントを開いてきました。現在1つは閉所し、手狭になった「はな」は他校区へ移転しましたが、2つの作業所は空き缶回収やバザーなどを通して地域住民との交流が続いています。



活動の工夫

「障がいや心配事を隠さず、助けを求めて欲しい」との願いから、毎月1回「はなされん」の会議を行い、情報交換をしています。作業所は地域に溶け込めるようお祭りや運動会に参加したり、職員が小学校で総合学習の講師を務めたり。日頃からの地域とのおつきあいがバザーやイベント時の住民の手伝いに結びついています。

今後の展望

年を経て、障がい児や親が集まるサークルから障がい児の働く作業所へと「場」は変化してきました。作業所に通う人たちは年齢を重ね、今後、入所を視野に「地域の中で働き暮らす」を目的にした施設が求められます。運営資金に向けた空き缶回収や、仕事を発注してくれるような企業の協力が望まれています。

毎週土日、食のある 子どもの居場所を提供



見守り



居場所



生活支援

東区

かしいはま子どもの家 ぽてとはうす

地域の概要

香椎浜校区は昭和58年に城浜団地北側の埋め立てによって誕生した校区です。陸側は中高層集合住宅が整備され、海側は大規模倉庫やコンテナターミナルなどの物流機能が集積しています。計画的に開発された地域のため、広幅員の道路、都市高速道、香椎浜ランプなどの都市基盤が整い、大規模な公園や緑地が多いのも特徴です。県営住宅・市営住宅・社宅供給公社分譲住宅、ケア付き住宅など、校区のほとんどが集合住宅になっています。

- 人口 6,327人・3,114世帯
- 高齢化率 35.1%

連携している人々

- 校区社会福祉協議会
- 香椎浜公民館
- スクールソーシャルワーカー
- 福岡女子大学
- 九州産業大学
- 住民ボランティア
- 民生委員・児童委員
- グリーンコープ

お問合せ

東区社協事務所
TEL 092-643-8922



活動のきっかけと内容

スクールソーシャルワーカー（SSW）の「土日や長期休暇にご飯を食べていない子がいるようだ」という話を耳にし、地域住民から「食のある子どもの居場所づくり」をしようという声が上がりました。平成28年4月、住民有志とSSW、区社協、グリーンコープで準備委員会を立ち上げて話し合いを重ね、同年7月、福岡市香椎浜西公園集会所を拠点に、食事ができて自由に過ごせる場所として「ぽてとはうす」を開設しました。その後、福岡女子大学、九州産業大学の協力を得て、学生が遊び相手になったり、学習支援を行ったりしています。

毎週土日の午後、毎回平均20人の子どもが参加し、令和2年11月までの開催数は413回、参加児童は延べ7,506人に上ります。「ぽてとはうすがずっと続いてほしい!」という子どもたちの声がボランティアの力になっています。



活動の工夫

学校とは別の居場所として存在し、家庭の事情に関わらず、誰もが来られるように「子ども食堂」と名付けていません。ハラル料理が必要な子には別に用意します。規則はなく、子どもたちは自由にさせています。子どもたちの気持ちを尊重し、遊びや話を強要もしていません。学生やボランティアは研修を行い、「ボランティアルール」に従って行動するようにしています。

今後の展望

室内を駆け回る子どもたちに注意したくなる場合でも、まずは叱らずに信頼関係を築くようにしています。ボランティアは不足気味です。子どもたちはパンよりもご飯を希望することが多く、人手が足りないときは受付などを手伝ってくれることも。卒業生がボランティアとして戻ってくれることを期待しています。

子どもの居場所づくりの意義を スクールソーシャルワーカーに聞く



ながせ ゆき
スクールソーシャルワーカー(前 香椎浜小学校担当) 永瀬 由季さん

学校で気を張っている子どもたち

「ぽてとはうす」と学校では、子どもたちの表情や様子はずいぶん違います。学校には限られた時間、日数の中で学習や行事などがあり、社会・集団生活を送る上でのルールもあります。子どもたちはその枠の中で周囲とペースを合わせ、次々と現れるものに取り組みようと頑張っているのでしょう。「ぽてとはうす」は子どもたちのペースで好きなように過ごせるので肩の力が抜けています。「この子はこんなにアクティブに動くんだった」「こんなによくしゃべる子だったんだ」と、新たな発見もあります。



子どもらしく甘えられる場所

子どもの居場所は子どもたちのエネルギーを発散する場所であると同時に「大人たちから可愛がってもらえる場所」でもあります。今年は新型コロナウイルスの影響で学生ボランティアの参加が見送られていますが、学生さんは子どもたちにとって身近なモデルであり、甘えられる存在です。親御さんは仕事で忙しかったり、きょうだいが多くて構ってもらえなかったりする中、「ぽてとはうす」は大人たちが自分を見てくれて、子どもらしく甘えられる場所なのです。特別な食事やイベントを準備しなくても、ただ大人がそばにいて見守って

いるだけでいい。親や人との情緒的な結び付きが弱い子どもは、そばで話を「うんうん」と聞いているだけで嬉しそうです。



お腹を満たし、情緒の安定へ

子ども食堂をはじめとする子どもの居場所づくりにはそれぞれに目的や方針、運営方法があるでしょう。それらに良し悪しはなく、「子どものお腹を満たし、情緒が安定する」ことが大事です。万引きなどの問題行動は、お腹や心が満たされていなかったり、孤独を感じた時に起こりがちです。子どもたちが自分たちの居場所で理由を聞かれず、大人に見守られながら食事をし、お腹が満たされ、心が満たされることで問題行動は解消されていきます。子どもの居場所で子どもたちの様子を見ると、作法や行儀が心配になるでしょうが、作法や行儀の前に人として情緒が安定し、人と人の結びつきや温かさを感じることも重要です。大人になって悩んだり、辛いと思う時に子どもの居場所の「応援してくれた大人の存在」を思い出し、それをエネルギーにして欲しい。子どもの居場所は情緒を育てるための「種まき」ですから、実になるまで、多くの子どもの居場所が長く続くことを願っています。

大人と子どもと一緒に調理し食べる子ども食堂



早良区

つくって食べよう土曜昼!

地域の概要

野芥校区は西油山の麓にあって緑豊かな自然環境が広がる一方、商業施設や店舗が多く、地下鉄3号線、外環状線、都市高速の開通によって近年人口が増えています。「住んでよかったそんな街に」をテーマに毎年「野芥サミット」を開催し、自治協議会や公民館、野芥南商工連合などの団体が一堂に会して連携・情報共有をしています。公民館では福岡市初の地域カフェを開き、「医療カフェ」「介護カフェ」等も行っていきます。

- 人口 12,023人・5,591世帯
- 高齢化率 29.9%

連携している人々

- 校区社会福祉協議会
- 自治協議会
- ヘルスマイト
- 野芥公民館
- 男女共同参画協議会
- 野芥小学校
- スクールソーシャルワーカー
- 大学(6大学)
- JA福岡市博多じょうもんさん入部市場
- グリーンコープ、ほか

お問合せ

早良区社協事務所
TEL 092-832-7383



活動のきっかけと内容

通学時の見守り活動の中で「元気のない子ども」を見かけるようになり、校区社協では「これまで高齢者ばかりに目を向けていた」と反省し、「子どもの福祉」にも力を入れることに。「美味しいご飯を皆で一緒に食べよう」と自治協議会や男女共同参画協議会など地域団体に声をかけ、平成30年8月から野芥公民館で子ども食堂「つくって食べよう土曜昼!」を行っています。「本物を食べさせたい」と、メニューはヘルスマイトに依頼。ボランティアが作るのをじっと待つのではなく、大人の手ほどきを受けながら子どもたちが自ら包丁やフライパンを持ち、調理・盛り付けをします。毎回50名の子どもが参加し、1人で来る子もいれば、友人と連れ立って来る子も。食後に感想をひと言述べるのが約束で、徐々に味の表現が豊かになっています。食後には大学生ボランティアによる学習支援も行っています。



コロナ禍でヘルスマイトが調理

活動の工夫

「子どもの頃から包丁を握るクセをつけておけば、何かの時に役立つのでは」と、校区社協は子ども用包丁や鍋を購入し、子どもたちが料理を作るようにしました。募集チラシは学校で配布し、受付は公民館が担当しています。調理や学習をサポートする大学生ボランティアは子どもたちに人気。幅広い年代、さまざまな団体の協力を得て、あらゆる角度から支援を行っています。

今後の展望

見守りで見た「元気のない子ども」が参加しているか、参加には親の承諾を要するため支援が必要な児童に届いているのかなど気かけはありますが、民生委員の声かけにより参加した児童もいます。コロナ禍で子どもが調理に参加しなくなると食事を残しがちで本来の目的を果たせず、運営に工夫が必要です。

つながる仕組み

- 協力する団体が多岐にわたり、年齢層も幅広い。
- ヘルスマイトがメニューを考え、試食会を実施して味や調理手順を確認。
- 簡便商品を使わず、出汁を取って子どもに本来の味を提供。
- サポートを受けながら子どもが自ら包丁を使って調理し、皆で一緒に食べる。
- 食後は学習時間を設け、大学生がサポートする。



関係者の声

出汁を取って本来の味を提供「おかわり!」の声が嬉しいです

これまで学んだレシピの中から献立を考えます。味は子ども向けにあまり変えず、前日から出汁を取っています。子ども食堂が終わったらすぐ皆で反省会をし、2ヵ月後の料理を試作します。公民館に電子レンジやオーブンがなく、限られた料理になるのは残念ですが、完食やおかわりしてくれると嬉しいです。自分で作ることが大切だから、時間がかかっても子どもたちの調理を見守っています。これをきっかけに食に関心を持ってもらいたいですね。



ヘルスマイトの皆さん

継続を目標に法人化 多彩な活動で子どもを支援



見守り



居場所



生活支援

博多区

NPO法人山王学舎 放課後の自学の習慣化活動

地域の概要

那珂校区は福岡国際空港に隣接し、校区内にJR竹下駅があります。ビール工場など多くの製造加工業所を有し、都心への利便性から販売・卸売営業所等も多く点在します。一方、住宅も多く、出生率が高いため、小中学校とも児童・生徒数は市内有数のマンモス校となっています。校区は「安心して暮らせるまち那珂」を目標とし、子育てサロンや子どもの見守り、「七草粥の会」での三世交代など、地域ぐるみでさまざまな活動を展開しています。

- 人口 21,480人・11,287世帯
- 高齢化率 15.5%

連携している人々

- スクールソーシャルワーカー
- 小・中学校
- 学生・住民ボランティア
- フードバンク福岡

お問合せ

博多区社協事務所
TEL 092-436-3651



活動のきっかけと内容

大学・予備校の美術講師・成田鐘哲さん夫妻が「子どもたちが地域で自由に過ごせる場所を作りたい」と、平成26年、公民館で美術教室をスタート。その後、時間制約のない場所で活動の幅を広げ、活動の公益性と収益の透明性を保つため、平成30年にNPO法人山王学舎を設立しました。民家を改装し、元教師、学生ボランティアの協力を得て、現在 ①放課後に自学や美術工作をする「放課後の学び支援」②食事を楽しむ「子ども食堂」③ボランティアと料理をする「子ども料理教室」④寝袋にくるまって友達と一晩過ごす「お泊り読書の会」を行っています。塾に行っていない、一人で留守番することが多い、多子世帯などさまざまな境遇の子どもたちが集まり、当初は「ご飯が口に合わない!」と言ってスタッフとケンカした子も今では一緒にご飯を食べ、伸び伸びと過ごしています。

活動の工夫

同法人は理想を掲げず、友人と時間・体験を共有する企画を考え、「子どもと一緒に楽しむ」スタイルで運営。「だらだら過ごしてもいい」と思う反面、民間の学童保育を兼ねているため、子どもが宿題や自学の耐性を身につけるよう努めています。

このような活動は不登校児童の支援にも役立っています。ルールを守れない子はスタッフが注意。親以外の大人が子どもと真剣に向き合うことも必要と感じています。



今後の展望

「地域の人々と関わって生きていく」と決めた成田さん。「低空飛行でも長く継続する」を目標に、収益を確保するため「食堂」の拡大を考えています。食事は子どもは無料ですが、大人は有料で提供しています。保護者同士が笑顔で交流し、「地縁」が生まれています。

大人が得意分野を生かして 学習支援と読み聞かせ



見守り



居場所



生活支援

城南区

わくわく楽習室・わくわく文庫

地域の概要

長尾校区は福岡市の中央部に位置し、南北に走る油山観光道路を中心に商店が連なっています。交通の便も良いため、長尾団地をはじめ住宅地が広がります。また、黒田家6代藩主の別荘だった「友泉亭」があり、現在、池泉回遊式日本庭園として整備されています。校区の中心には樋井川が流れ、定期的な清掃を通して樋井川を守り自然に親しむ活動も行われています。長尾小学校は明治6年に創学し、140余年を超える歴史と伝統を誇る小学校です。

- 人口 12,877人・6,450世帯
- 高齢化率 25.5%

連携している人々

- 校区社会福祉協議会
- わくわく楽習室・わくわく文庫
- 長尾公民館

お問合せ

城南区社協事務所
TEL 092-832-6427



活動のきっかけと内容

笠松範子さんは、長尾団地の空きスペースを活用して自由に過ごせる場をつくれないうまく模索していました。長尾公民館での「ふれあいカフェ」で高齢者と出会い、高齢者の居場所、交流スペースとしての役割が生まれました。終活で大量に寄付された本から、身近な図書室のような役割も生まれ、居場所や本に興味を持つ住民にクチコミで徐々に広がり、地域交流スペースとしての様相を持ち始めました。月曜・木曜を無料開放して出入り自由な空間にし、特に夕方からは、ボランティアの人々が子どもたちの居場所づくりを行っています。月曜日(16~18時)は、元教師たちが学習支援と学年を超えた子どもたちの交流の場「わくわく楽習室」を行い、木曜日(16~18時・第3月曜10~12時)は図書館や学校などで絵本の読み聞かせをしている人々が本の貸し出しやおはなし会などの読書活動の場「わくわく文庫」を行っています。



活動の工夫

「楽習室」は塾と違ってカリキュラムを決めず、宿題などを通して学習の「つまづき」をサポート。ワークや遊びを通して人との交流も楽しんでいます。「文庫」ではコロナ禍で外出を控えた乳幼児連れの母親に向けて、LINEを使ってオンラインおはなし会も行いました。「楽習室」「文庫」の枠を超えて幼児~小・中学生を中心に高齢者も触れ合える夏祭りなどを行いました。

今後の展望

部屋では学年を超えて子ども同士が勉強を教え合ったり、出来事をざっくばらんに話したりして、居心地の良い雰囲気。「家で一人きりで勉強している子ども、本に触れる機会の少ない子ども、不登校の子どものホッとできる空間になれば…」と願うメンバー。コロナ禍の中、保護者や子どもたちへの広報が悩みです。

ささえあいの地域をめざして

この事例集では、共に生きる地域づくりにつながる、市内のさまざまな「ささえあい」の取り組みを紹介してきました。このような「ささえあい」は、「居場所を通じた交流」や「支援のネットワーク」として、高齢者や障がいのある方、子どもなど、分野を超えて広がっており、紹介しきれなかった取り組みもたくさんあります。

「居場所を通じた交流」は、地域共生社会づくりの基盤となる大切な取り組みです。校区社協では、高齢者などの孤立防止や介護予防のため、「ふれあいサロン」の取り組みを進めてきました。誰でも、いつでも自由に参加できるような居場所として、「地域カフェ」を開催するようになりました。このような場に足を運び、お互いに顔を合わせ、おしゃべりを楽しむだけでも、見守りや認知症予防などの効果が期待されます。

このような居場所の運営には、地域のさまざまな人たちが関わり、近年では、生活支援ボランティアグループの結成等、多様な課題解決の取り組みに広がっています。「認知症カフェ」は、認知症の人やその家族、地域住民、介護や福祉の専門職などが交流を通して認知症を学び、考える機会となります。「子ども食堂」は、地域のボランティアが食事や暖かな団らんを提供するもので、地域の子どもや保護者、高齢者のほか、スクールソーシャルワーカーなどが、交流やお互いの理解を深める場にもなっています。「農福連携」により食材を提供する仕組みもできました。こうした居場所に、地域の福祉サービス事業所や店舗がスペースを提供したり、空家を活用するケースもあります。地域の方々の思い、地域の生活課題や資源の違いなどによって、居場所の展開や関係の広がり、地域ならではの特色が出ています。

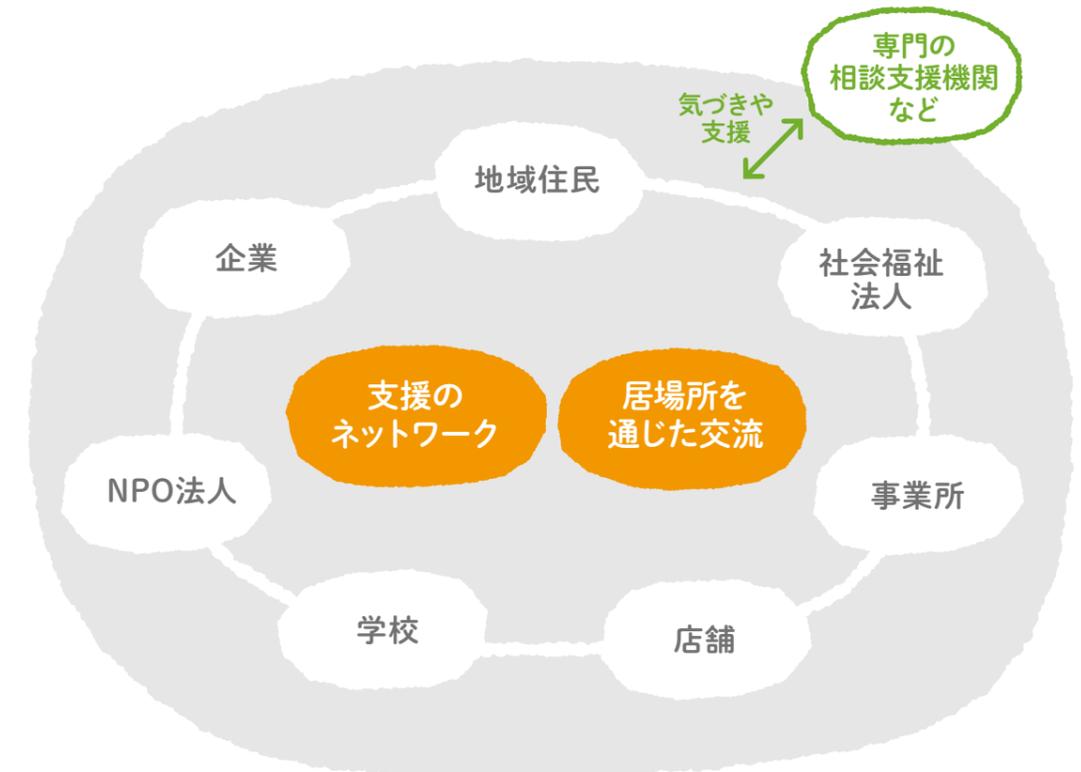
見守りやささえあいに取り組む「支援のネットワーク」も、地域ごとにさまざまな形で広がっています。地域では、校区社協、自治会・町内会、民生委員や老人クラブなどの団体が、独居の高齢者や障がいのある方などの見守り活動を行っています。日ごろの生活の様子を知っているからこそその気づきが、安否の確認や健康状態の把握などにつながっています。

「支援のネットワーク」に、地域の福祉サービス事業所、スーパーや宅配業者などが参加する事例も増えています。企業や地域の事業所として「社会貢献したい」という思いはもちろん、来店するお客さんの様子を見て「もしかしたら認知症ではないか」と同じ地域の一員として気にかけることがはじめての一步。気づきを共有して、お互いが理解を深めることで、ネットワークが広がっています。そういったネットワークの広がりが発展し、健康づくりのための教室やプログラムに、地域の専門職が講師として参加する事例も増えています。

このような「居場所を通じた交流」や「支援のネットワーク」が広がり、地域住民や専門職など、さまざまな立場の方々が活動を共にすることは、お互いを知る機会になったり、立場の違う人たちを認め合うきっかけとなっています。顔の見える関係ができていくことは、いざというときの連携にも役立ちます。近年、各地で大雨などを契機とした大規模な災害が起こっていますが、日ごろの見守り活動が災害時のたすけあいの基盤にもなっています。

事例集の作成を通じて、皆さんの声を聞いて感じたことは、皆さんがいきいきとした様子で、さまざまな思いを持って活動されているということです。人助けとってしていることが自分の生きがいとなったり、感謝の言葉が生活の張りになっているのでは、と感じます。高齢であったり、障がいがあったりしても、活動への参加を通じて支援する側になっている事例もありました。

地域共生社会という言葉が、これからの地域福祉のテーマとなっています。「人と人、人と社会がつながり、一人ひとりが生きがいや役割を持ちささえあうことができる社会」を目指す地域共生社会の理念は、実は新しいものではなく、これまで地域の方々が日ごろのちょっとした気づきや思いやりの心、「お互いさまの心」を育て、「ささえあい」の取り組みとして広げてきた実践そのものであり、それが「共に生きるまちづくり」につながっているのだと感じます。私たちには、「つながりの場」としての地域をつくることにより、どこまでも「人」を大切にする実践を一つひとつ積み重ねていく営みが求められていることを痛感しています。この事例集に掲載しているような取り組みが、さらに広がっていくことを願っています。



語句の紹介

【事業所】

老人福祉施設、生活介護施設(短期入所、通所)など。

【地域カフェ】

高齢者等の孤立防止、見守り、交流を目的として開かれた集まりの場所。認知症の人やその家族、専門家が集うものは「認知症カフェ」と呼ばれる。

【ふれあいネットワーク】

地域住民や地域団体等が連携し、支援の必要な高齢者や障がいのある方を見守り・声かけ等を行う活動。高齢者などの地域の居場所である「ふれあいサロン」も開かれている。

【ソーシャルワーカー(SW)】

支援を必要とする人の相談に乗り、問題解決に取り組む専門家(社会福祉士・精神保健福祉士)。地域福祉に関係する人はコミュニティソーシャルワーカー(CSW)、子どもを支援する人はスクールソーシャルワーカー(SSW)と呼ばれる。

【共創コネクター】

自治協議会や福岡市、企業などと一緒に、地域の未来を共に創り出す相談員。